

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第3回)**

岩手県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2025年1月22日

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（１）全体概要：『岩手さんりくを探索！「YOUTH特派員」』

『岩手さんりくを探索！「YOUTH特派員」』取材プログラム	
企画趣旨	岩手県内陸部の高校生が、沿岸部の動画取材を題材として取材構成等を自ら考案していく過程で、沿岸部の被災状況や現状を学び、その魅力を探索することで、沿岸部との繋がりを強めることを目的とする。
開催日程	・ 2024年12月7日（土）～12月8日（日）※1泊2日
参加者	・ 高校生8名（盛岡第一高校 5名/盛岡第三高校 3名）
活動拠点	・ マリオス盛岡地域交流センター（事前ミーティング・当日のインタビュー取材・最終ミーティング）
実施内容	・ 事務局が事前に設定した取材候補地の他、独自に考案した取材構成をもとに現地取材を行う。 ・ 震災からの復興において、当事者の方々の活動や思いを取材する。 ・ 高校生目線で、沿岸エリアの魅力的な場所や人を発掘する。
取材内容	・ 陸前高田市：奇跡の一本松を取材対象として構成（本編ではオープニングとエンディングコメントを撮影） ・ 大船渡市：樁を題材に、大船渡における樁産業の歴史や、震災時の樁の被害について取材（世界の樁館・碁石） ・ 釜石市：釜石ラーメンの歴史や魅力、被災時の状況や復興についての思いを取材（新華園本店） ・ 宮古市：遊覧船うみねこ丸の誕生と、震災前後の状況について取材（浄土ヶ浜・うみねこ丸） ・ 久慈市：三陸鉄道久慈駅にスポットを当て、震災時の状況と未来を担う若手運転手を取材（久慈駅・三陸鉄道） ※各取材地と取材構成は、高校生が構成した内容を採用。
事前ミーティング等実施	・ 10月17日（木）：「事前説明会@オンライン」参加者へ取組の趣旨・実施内容の説明 ・ 10月20日（日）：「事前ミーティング@マリオス」震災復興に関する講話、取材構成についてのミーティング ・ 10月31日（木）：「構成ミーティング@オンライン」事前ミーティング後に高校生が構成した内容の発表と調整ミーティング ・ 11月22日（木）：「構成ミーティング@オンライン」盛岡第一高校の参加学生と、取材前最終構成ミーティング ・ 11月28日（木）：「構成ミーティング@オンライン」盛岡第三高校の参加学生と、取材前最終構成ミーティング
動画公開	・ 2025年2月13日（予定）「新しい東北」公式YouTube
記事掲載	・ 読売中高生新聞 2月14日付・YOUTH TIME JAPAN誌（高校生向けフリーペーパー）2月14日発行号

（２）参加者募集方法

文化活動の盛んな岩手県においては、放送委員会を有する高校が多く、事務局によって放送コンテンツ等へ参加している高校を調査、参加を打診する高校を選定。県の協力のもと、3つの高校への説明、訪問を実施し、2校から参加承諾を得る。

- 企画時は、チラシ等の配布によって幅広く募集を行う想定だったが、第一回意見交換会にて「**特定の学校に活動の一環として取り組んでもらう方が良い**」「**特定の学校に活動の一環として取り組んでもらう方が良い**」という意見をいただき、募集方法を変更。
- 活動の一環として取組に参加できる県内の高校に向けた募集告知を展開するため、**県の協力を得て岩手県教委のオンライン掲示板へ募集告知文書を掲示**。
同時並行で、放送コンテンツなどに参加する高校に対して、**個別に参加協力依頼を実施**。

＜参加者＞

盛岡第一高等学校：5名

（2年生3名・1年生2名）

盛岡第三高等学校：3名

（1年生3名）

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（3）事前ミーティング等の実施状況-1

＜事前説明会＞ オンライン

開催日時：2024年10月17日（木）午後4時～

開催目的：参加者へ取組の趣旨・実施内容を説明するオンライン会議を実施。

オンライン説明会の開催日・時間は、事前に参加高校と調整のうえ設定を行った。

参加者：・高校生6名（盛岡第一高校3名/盛岡第三高校3名）

・事務局4名

・長久氏（映像ディレクター）

＜実施写真＞ オンライン会議スクリーンショット



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（３）事前ミーティング等の実施状況- 2

<事前ミーティング>

開催日時：2024年10月20日（日）午後1時～午後4時

開催場所：マリオス盛岡地域交流センター 18F 会議室187（〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通2丁目9-1）

開催内容：13:00～主催者挨拶：10分 企画趣旨説明（オンライン）復興庁本庁

13:10～講演1：30分 岩手県の震災・復興について／株式会社東海新報社 代表取締役 鈴木 英里様

13:40～講演2：30分 映像制作について（取材の取り組み方/取材の準備）
／株式会社Gee 代表取締役 長久 弦様

14:10～【休憩】

14:20～構成MTG：100分 取材構成・取材対象の選定
・候補地以外で取材したい場所の要望などに関する意見交換
・取材対象、テーマ、構成について

16:00 終了

参加者：・高校生5名（盛岡第一高校3名/盛岡第三高校2名）

・鈴木氏（講演）・長久氏（講演）・事務局4名

<実施風景>



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（３）事前ミーティング等の実施状況- 3

＜構成ミーティング＞

開催日程：2024年10月31日（木）午後4時30分～

開催内容：事前ミーティングで決定した担当地域で、こういった構成で何を取材するかをそれぞれが発表。

取材構成に対して、事前の調査事項や内容の検討を実施。

取材場所：■盛岡第一高校

- ・陸前高田市：奇跡の一本松
- ・釜石市：釜石ラーメン
- ・久慈市：三陸鉄道久慈駅

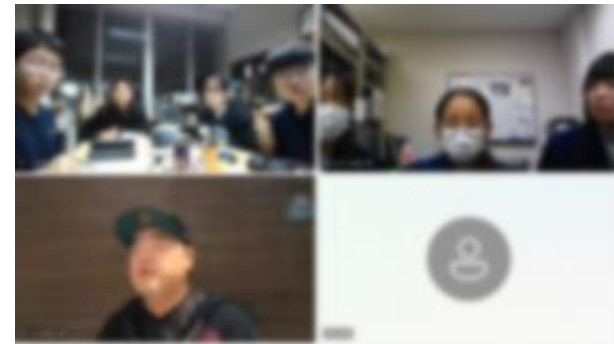
■盛岡第三高校

- ・大船渡市：椿・碁石椿館
- ・宮古市：遊覧船うみねこ丸

参加者：・高校生7名（盛岡第一高校4名/盛岡第三高校3名）・事務局3名

・長久氏（映像ディレクター）

＜実施写真＞ オンライン会議スクリーンショット



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（3）事前ミーティング等の実施状況- 4

<構成ミーティング>

開催日時：盛岡第一高校 2024年11月22日（金）午後5時～

盛岡第三高校 2024年11月28日（木）午後4時30分～

開催内容：取材場所における構成を考え、取材の流れを検討。

※以降は各構成内容をベースに、事務局が最終検討と取材交渉を実施。

取材場所：■盛岡第一高校

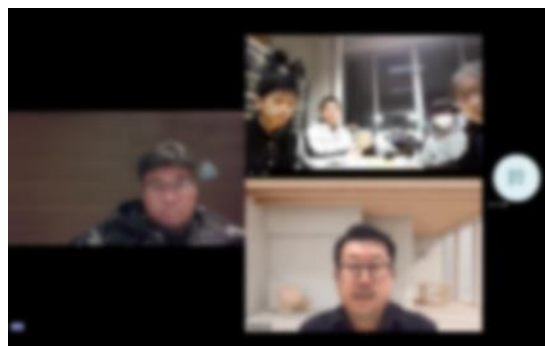
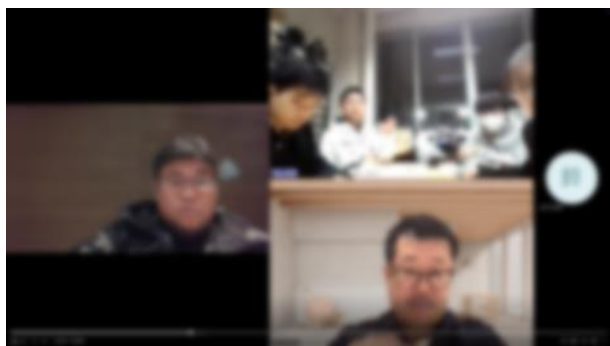
- ・陸前高田市：奇跡の一本松（被災から保全までの軌跡を、市役所や東日本大震災津波伝承館で取材）
- ・釜石市：釜石ラーメン（震災前後の釜石ラーメンと街・住民との関係性、これからの未来に対する展望を取材）
- ・久慈市：三陸鉄道久慈駅（震災復旧時の様子を望月元社長からインタビュー、未来を担う若手社員の取材）

■盛岡第三高校

- ・大船渡市：椿・碁石椿館（大船渡の椿の歴史、椿産業や新しい製造方法、活用方法について）
- ・宮古市：遊覧船うみねこ丸（浄土ヶ浜観光の象徴となる「うみねこ丸」と地域の結びつき、震災時の様子など）

参加者：・高校生7名（盛岡第一高校4名/盛岡第三高校3名）・事務局4名
・長久氏（映像ディレクター）

<実施写真> オンライン会議スクリーンショット



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（４）当日の取材行程

■ 12月7日（土）行程

項目	時間			Lap	備考
盛岡駅西口 マリオス3Fロビー集合～バス乗車	8:00	～	8:15	15分	※関係者は7:45集合
マリオス→高田松原津波復興祈念公園	8:15	～	10:30	2時間15分	バス車内で長久さんから撮影に関するオリエン
高田松原津波復興祈念公園 奇跡の一本松 撮影	10:30	～	11:30	60分	・一本松前で撮影、他素材の撮影 ・到着時に公園事務所にて撮影許可証受取（田辺・菊池）
高田松原津波復興祈念公園→大船渡 椿館	11:30	～	11:50	20分	
大船渡 椿館 撮影	12:00	～	13:30	1時間30分	・椿館内での撮影（インタビュー） ※時間があれば熊野神社で三面椿の見学
大船渡→釜石新華園	13:30	～	14:40	1時間10分	※バス内昼食（お弁当/椿館で積み込み）
釜石新華園 撮影	14:40	～	17:00	2時間20分	※店内撮影 15時～ ・店舗内外撮影（外観・調理風景・お客さんインタビュー等）
釜石新華園→ホテル近江屋	17:00	～	18:00	1時間10分	
ホテル近江屋（宮古）チェックイン	18:00	～	18:15	15分	※各自一度部屋に入り休憩
ホテル夕食	19:30	～	20:30	1時間	※夕食後、明日のスケジュール確認

■ 12月8日（日）行程

項目	時間			Lap	備考
ホテル近江屋（宮古）チェックアウト	8:00				朝食時間6:30～
ホテル近江屋→浄土ヶ浜ビジターセンター→遊歩道	8:10	～	8:30	20分	
うみねこ丸 遊歩道・乗船場撮影	8:30	～	9:20	1時間	乗船場手前の遊歩道でインタビュー撮影 ※バスは出先港へ移動・待機
うみねこ丸（9:30発）【浄土ヶ浜】～【出先港】	9:30	～	10:00	30分	乗船して、景観を撮影
「シートピアなあと」（出崎港）でトイレ休憩	10:00	～	10:15	15分	移動前トイレ
「シートピアなあと」（出崎港）→三陸鉄道久慈駅	10:15	～	11:45	1時間30分	
三陸鉄道久慈駅着→ホーム移動	11:45	～	12:00	15分	※バスは普代駅へ移動・待機
車内撮影（乗車は12:07分久慈発）※普代駅下車	12:07	～	12:53	43分	※車内で成瀬さんインタビュー
普代駅→盛岡マリオス	13:00	～	15:00	2時間	※バス内昼食（お弁当/普代駅で積み込み）
マリオス 三陸鉄道 前社長望月さん撮影	15:00	～	16:00	1時間	インタビュー・望月さんから当時の資料スライドを披露いただく
最終ミーティング	16:00	～	17:00	1時間	

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

陸前高田市 奇跡の一本松

■『岩手さんりくを探究！「YOUTH特派員」』 オープニング・エンディングコメント撮影

・カメラマン、監督など各自に役割が与えられ、両校の生徒たちが協力して撮影を実施。



大船渡市 世界の樫館・碁石

■ 樫を題材に、大船渡における樫産業の歴史や、震災時の樫の被害について取材

・大船渡ツバキ協会会長林田様、世界の樫館・碁石館長代理梅澤様から、樫産業と被災当時の様子を取材。

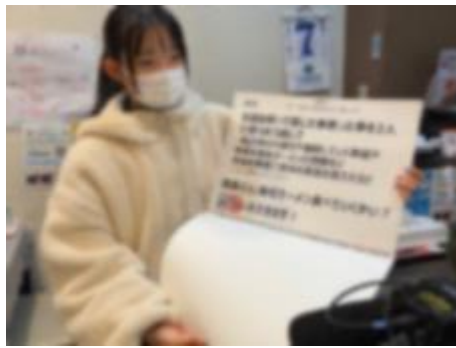


● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

釜石市 新華園本店

■ 釜石ラーメンの歴史や魅力、被災時の状況や復興についての思いを取材

・釜石ラーメンを食べに来店したお客様へのインタビューや、店主の西条様から釜石ラーメンの歴史や被災時の状況などについて取材。



宮古市 遊覧船うみねこ丸

■ 遊覧船うみねこ丸の誕生と、震災前後の状況について取材

・前身の「陸中丸」からガイドを務めてきた金沢様から、震災前後の遊覧船観光の様子や、宮古市の観光資源としてのうみねこ丸について取材。



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

久慈市 三陸鉄道 久慈駅

■ 三陸鉄道久慈駅にスポットを当て、震災時の状況と未来を担う若手運転手を取材

・三陸鉄道にも乗車し、車内では、東京出身の運転士成瀬様から三陸鉄道への想いを、盛岡に移動後は元社長の望月様から震災当時の状況を取材。



※取材後には、望月様よりPCを使って高校生たちに直接震災当時の様子や状況などについての講話も行われました。

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（５）最終ミーティング

■最後の取材を終え、参加した高校生と映像ディレクターで最終のミーティングを実施。

取材した内容から、編集構成等について再度検討を行った。

また、今回の取組に参加し、各々が感じたことの発表を行った。

<構成検討の一部>

- ・釜石ラーメンの撮影時、当初の構成にはなかった、お店紹介シーンで店内に小走りに入るシーンを撮影したが、ワクワクして急いでる感じが出ていて良かったので、そのまま編集に加えてほしい。
- ・奇跡の一本松で撮影したオープニングは、正面からのカットだけより、斜め横から撮影していた素材も加えて変化があると良いと思う。
- ・何回か撮影したシーンについては、よく出来たシーンを使ってほしい。

<感想の一部>

- ・これまで知っていると思っていた震災について、現地の方々のインタビューからリアルな状況を直接聞き、脅威を感じた。
- ・同じ岩手県に住んでいたのに知らなかったことや場所があった。
- ・取材を通じて、撮影の技術以外にも、人とのコミュニケーションや準備の重要性を学んだ。
- ・沿岸部には魅力的な人や場所、風景に溢れており、素敵な地域だと改めて学ぶことが出来た。



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる参加者の感想

<1日目を終えた感想>

- ・釜石ラーメンのお店の方から**東日本大震災についてのお話を直接聞いて、震災の脅威を実感しました。**（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・釜石ラーメンの店「新華園」に行き、震災のお話を聞いたことが心に残りました。以前、放送委員会の活動で震災を経験した方にお話を伺ったことがありましたが、その時とはまた異なる貴重なお話を聞くことが出来ました。**生々しい光景を暗い雰囲気ですら話してくださり、インタビューをしているこちらが泣きそうになりました。**（盛岡第一高等学校2年 女子学生）
- ・陸前高田の奇跡の一本松では、**街の姿が変わろうとも復興のシンボルとしてあり続けるその姿に勇気をもらうことができました。**
震災復興に携わっていた父によく連れて来てもらってはありましたが、まさかこのような形で訪れるとは思っていませんでした。
三陸の復興に自身の成長を重ね、感慨深かったです。
大船渡では、どれだけ傷んでも変わらず花を咲かせる椿の強さを感じることができました。
震災に負けず、何度でも立ち上がろうとする三陸の人々の心にも、きっと美しい花が咲くのだろうと思いました。
釜石では、**地域の人々に笑顔をもたらすラーメンの味を知ることができました。**釜石ラーメンの優しい味わいは、先代から絶やさず紡いできた「願い」によるものだと感じました。また**今度は個人的に訪れてみたいと思いました。**
自分たちが住む内陸を離れた1日目では、慣れない光景や初めて合う人達との出会いに刺激をもらうことができました。
また、カメラに実際に触ってみたり、撮影している様子を見たりして、番組制作の裏側を学ぶことができました。さまざまな面で勉強になった一日でした。
（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・**釜石ラーメンをみんなに見守られながら食べたことが1番印象に残りました。**とても美味しかったです!!（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・**朝から寒かったが取材先の方との会話のあたたかさであったまることができた。**
ピンマイクほしいな—と思って金額を調べたらえらい高額でプロとの差を感じてしまった。（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・**震災当時のことや復興について、調べただけではわからないことを知ることができてよかった。**震災による被害だけでなく、人口の減少や地球温暖化の影響などさまざまな問題があるなかで頑張っている方々の話を聞くことができてよかった。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・カメラの使い方を教えてもらったり、ピンマイクを初めて見たりして、**初めての体験ができて楽しかった**です（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・初めて本格的な撮影をして、カメラの画角（位置）や、時と場合に応じて工夫をすることの大切さを実感した。テレビはそういったことの積み重ねで一つの番組が作成されていると分かった。**出演者として椿のインタビューをした時はかなり緊張して表情や話し方が強張ってしまったが、アドバイスのおかげで無事、形になったと思う。**（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる参加者の感想

<2日目を終えた感想>

- ・**うみねこ丸や三陸鉄道が町の象徴となり、地域の人々を支えていることがわかりました。**（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・2日目は海を沢山見ました。船の上や三鉄の中から見た海は壮大で、青色が綺麗でした。しかし、**そんな海も時に人間の想像を越えて暴れだすと思うと恐ろしくなります。**観光や生活になくてはならない自然と、人との様子を伝えられる映像作品を作れたらいいなと感じました。
（盛岡第一高等学校2年 女子学生）
- ・**宮古では、雄大な海を前に三陸の自然の美しさを体感することができました。**遊覧船には小学生以来の乗船となりましたが、**変わらず美しくあり続ける海の姿に感動すら覚えました。同時に、この穏やかで美しい海が14年前、大津波となって三陸を襲ったことが信じられなくなりました。久慈では、地域の人達の暮らしと想いを乗せて走り続ける三陸鉄道について学ぶことが出来ました。**おなじみの三鉄の車体カラーですが、白は「誠実さ」、青は三陸の「青い海」、そして赤は「情熱」を表しているそうです。**熱い情熱もつ成瀬さんが愛する三陸鉄道が、これからも変わらず復興のシンボルであり続けて欲しいと心から思いました。**
2日目は船の上から、そして三陸鉄道の車窓から「海」に触れることができました。**雄大な三陸の海は、きっと現地の人達の心の支えなのだろうと感じました。**カメラの撮影では、慣れもあってか自分の納得のいくようにこなすことができました。昨日に引き続き、**大変勉強になった一日でした。**
（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・自動車や遊覧船のような乗り物での初めての取材だったのですが、楽しんで取材することができたと思いました。**さらに、取材の魅力を知ることができました。**
（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・自分がお話を聞いた**成瀬さんの三陸鉄道愛がすごすぎて取材がとても楽しかった。また三陸鉄道に乗りたくなった。**
（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・1日目の方々と同じく、**自分の仕事に誇りを持っていて、真剣に向き合ってきたのだと感じた。**震災前のことについても聞くことができてよかった。
（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・カンペを初めて出して、腕が疲れたので、テレビの人すごいなと思いました。**こういう風に番組を組み立てていくんだなと実感出来ました**
（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・**うみねこ丸と三陸鉄道に初めて乗った。取材や撮影をするには実際に体験をしてそのものの良さを！ 知ることが大切だと分かった。**
様々なことを経験出来て良い1日になりました。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる参加者の感想

＜この取り組みに参加して、沿岸部について、どんなことが学びましたか？＞

- ・震災の記憶を風化させないように努力している人がいるということを学びました。（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・自然の豊かさや、街中ではわからない自然そのものの良さ。沿岸の人々の温かさ。（盛岡第一高等学校2年 女子学生）
- ・沿岸部は魅力的な人や場所、風景にあふれた素敵な地域だと、今回の旅を通して改めて学ぶことができました。
また、行く先々の街が、思っていたよりも早く復興を遂げているように感じました。現地の人達に触れて、画面越しでは分からないような沿岸部の姿を体感することができました。（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・取材の面白さや魅力、もっと具体的にいうと取材において事前に計画することの重要性を学びました。（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・同じ岩手に住んでいても知らなかった面白い場所がたくさんあること。（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・震災を経験した人の声を実際に聞き、調べただけではわからないことを知ることができた。
震災をきっかけに変わったことや、もともとあったものをもっとアピールしているものがあることを知ることができた。
（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・沿岸にはたくさんの魅力があって、でも、他の人が知らない魅力をもっと発信したいです。
釜石ラーメンや椿の存在を知らなかったので、そういう人たちに伝えたいです（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・津波の被害を受けた後、未来を目指してどのように復興してきたのか、そして震災を経験した多くの人が、事の風化を防ぐために次世代の若者に語り伝えてほしいという思いが強く伝わってきた。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる参加者の感想

＜この取り組みを通して、沿岸部に対するあなたの考えやイメージはどのように変わりましたか？＞

- ・コロナ禍以降では初めて来たので、自分が暮らしていた頃と異なる部分があると思っていましたが、大きな変化はなくイメージは**良い意味で変わっていません**。（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・私は幼少期に宮古に住んでいました。しかし、住んでいた所は海から離れた場所で、あまり海や海岸に行っていなかったこともあり、宮古と海の繋がりを感じていませんでした。2日目にうみねこ丸の取材をしたり、実際に乗船したりしたことで、**海は宮古にとって大切な要素の1つなのだと気が付きました**。（盛岡第一高等学校2年 女子学生）
- ・私が思っていた以上に現地の人達は元気で、街は活気にあふれていると感じました。**前向きな現地の人達に触れて、沿岸部がより明るく、未来への希望のある地域に感じるようになりました**。（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・**沿岸の復興はあらかた終わったと思っていたのですが...実はそんなことはなく**、様々な方に取材をしていくうちに、**沿岸はそこに住んでいる人々の熱い想いでもっともっと成長していくと思いました！**（盛岡第一高等学校1年 男子学生）
- ・いいところだと思っていたら**もっといいところでした**（盛岡第一高等学校2年 男子学生）
- ・震災後のことしか、あまり知らなかったけど、もともとあったものを震災をきっかけにもっとアピールしているものが多くあり、**震災前のことも知ることで、今を大切にしていることが伝わってきた**。また、観光客など外部の人に向けた復興だけではなく、**地元寄り添った復興が進められてきたのかなと思った**。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・イメージはあまり変わってないです。**地元愛が強い人達が復興に向かって頑張ってるんだなと実感**しました（盛岡第三高等学校1年 女子学生）
- ・三陸は小学校の時の記憶しかないので、**復興途中であり、復興があまり進んでいないイメージだった。だが、話を聞いて多くの人がそれぞれの場所や形で復興に貢献していた**。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる参加者の感想

＜映像取材を通して、特に印象に残ったことは何ですか？＞

・ラーメン店の店主の方のお話（盛岡第一高等学校2年 男子学生）

・ピントの合わせ方が印象に残りました。ズーム機能だけでなく、これからはレンズの周りのダイヤルでも調整しようと思いました。（盛岡第一高等学校2年 女子学生）

・宮古の海です。内陸に住む私たちはあまり見る機会がありませんから、海はこれほど雄大なものと感動しました。船の上から見る青い海の美しさはこれからも忘れることはないでしょう。（盛岡第一高等学校1年 男子学生）

・取材の面白さを知ることができたことです。これまでは、取材はまじめにやるものだと思っていたけど楽しみながら取材をすると取材をされる側もリラックスして取材を受けれると思いました。（盛岡第一高等学校1年 男子学生）

・映像撮影のやり方。（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

・ピントの合わせ方、明るさの調整、画角、人物を撮るときの構図（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

・コミュニケーションの大切さ。撮影やインタビューの際、相手がリラックスして自然の姿を見せられる雰囲気作りの重要性が映像取材では求められると感じたこと（盛岡第三高等学校1年 女子学生）

＜この取り組みに参加して良かったと思いますか？（選択回答）＞

・とても良かった	 7名
・良かった	0名
・どちらでもない	0名
・参加しないほうが良かった	0名

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

アンケートによる学校（同行いただいた先生）の感想

<学校として、この取り組みに参加した感想を教えてください>

・今回は、普段の委員会活動ではできない体験をたくさんさせていただいたことに感謝申し上げます。

放送部・放送委員会の技術を学ぶ機会は定期的にあるのですが、一つの番組の流れを追って制作するという一連の作業を追体験するというのは、あまり無く、生徒にとって良い刺激となったと思います。

特に現場で、どう機材を動かしたら良いか、どのようにインタビューしたら良いかといった、臨機応変に動くことは生徒にはまだまだ不慣れな点が多いため、学びが多かったと思います。

今回は、新しい東北イベント事務局の皆さんのお力添え。。。というよりは、至れり尽くせりの準備をしていただいたおかげでスムーズに取材が進んだと思います。

もう少し長いスパンで生徒たちに準備する時間、打合せの時間があれば、生徒たち自身が立体的に動けるイベントになってたかもしれません。

兎にも角にも、大変お世話になりました。誠に有難うございました。（盛岡第一高等学校）

・まず始めに、この企画の話をいただいて、正直いって忙しい時期なので困りました。

また、そのイベント自体が万博での発表などとうかがって、不慣れな一年生ではたして大丈夫なのかと心配しました。

しかし、プロの方たちからたくさんご指導をいただき、どの生徒たちもかなり勉強になったと思います。

特に、本校の生徒はシャイな生徒たちで、積極的な方ではないと思いましたが、長久さんが気を配ってくださり割り振りをしていただいたので撮影に携わることができていました。

盛岡一高の生徒たちと比べて、本校の視聴覚委員は、この委員がする仕事をよく理解せずに、いわばジャンケンで決まった生徒が多いのです。

しかし、**このような機会をいただいて、今後の高総文祭や、NHK杯高校放送コンテストにおいて期待できると感じました。**

この**生徒たちが、将来いろいろな方面で活躍してくれると期待**しています。

また、私自身、放送部などの顧問として、たいへん勉強になりました。大変ありがたいと思っています。

このような機会をいただいてどうもありがとうございました。（盛岡第三高等学校）

● 招待状作成ワークショップの実施報告

（１）全体概要：岩手県「招待状作成ワークショップ」

TOHOKU MOMENT 招待状作成ワークショップ	
企画趣旨	東北３県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北３県に人を引き付ける、全世界に向けた招待状の制作を行う
開催日程	第1回 ①2024年10月29日（火）16:30～ ※1回目は2回に分けて開催 ②2024年11月 2日（土）17:00～ ※1回目は2回に分けて開催 第2回 2024年11月20日（水）16:30～ 第3回 2024年12月10日（火）16:30～
開催方法	オンライン開催
実施内容	計3回のワークショップ開催し、10箇所/10ページ構成の招待状を考案する
参加者	高校生9名・大学生4名 計13名（平舘高校1名/盛岡第三高校2名/不来方高校6名/岩手大学4名）
実施内容	・ 1回目：掲載内容の検討・候補地の洗い出し・写真イメージ設定（掲載内容・写真・メッセージを課題として提出） ・ 2回目：ページ構成内容・表紙（ロゴ）設定・ページネーション構成・サブタイトル決定（リード文を課題として提出） ・ 3回目：ページ構成・表紙決定・最終修正内容の確認（一言コメントを課題として提出）

TOHOKU MOMENT（展示イベント）	
企画趣旨	首都圏のイベントスペースで、招待状を1ページごとにパネル化した展示イベントを開催。インバウンドを含めた来場者に、招待状の内容をお披露目する。魅力を感じる場所をアンケートで回答することで銘菓が当たる抽選会に参加できる集客施策も実施。
開催時期	・ 2025年2月22日（土）～23日（日）
開催会場	・ 東京 渋谷スクランブルスクエア 7F「L×7」（エルバイセブン）
内容	・ 3県の招待状各ページを拡大（A2サイズ）、展示する。 ・ パネルに投票用ナンバリングを実施し掲出。来場者は県ごとに「特に魅力を感じた、行ってみたいになった」パネルを回答。 ・ 回答用紙はスタッフが回収し、提出した来場者は3県の銘菓が当たる抽選会に参加。

(2) 参加者募集方法

写真や観光などの分野で活動を行う部活動、委員会を有する高校・団体へのアプローチと、副代表団体の協力によって参加者募集を実施。
参加意向のある団体・個人からの申込を受け付け参加者を決定。

- 主な告知展開として、**岩手県教委のオンライン掲示板へ募集告知展開（岩手県）、いわて若者カフェの登録団体へのメール・SNSによる告知（いわて連携復興センター）、学内サークルへの直接案内（岩手大学）**を行った。
- 募集当初は、ワークショップの開催日程を参加者と調整するとして日程未記載で告知展開を行ったが、日程が参加への決定要素となる、という意見を受け、募集当初から参加申し込みのあった高校生と開催日程の調整を実施。その後は開催日程を明記した状態で募集を継続した。

<最終参加者>

平舘高等学校：1名（1年生）

盛岡第三高等学校：2名（1年生1名・2年生1名）

不来方高等学校：6名（2年生6名）

岩手大学：4名（1回生2名・2回生1名・3回生1名）

※岩手大学「三陸委員会ここより」から参加

● 招待状作成ワークショップの実施報告

(3) 招待状作成ワークショップの実施状況-1

【実施風景／第1回／2024年10月29日、11月2日@オンライン】



【実施風景／第2回／2024年11月20日@オンライン】



● 招待状作成ワークショップの実施報告

（３）招待状作成ワークショップの実施状況-2

【実施風景／第3回／2024年12月10日@オンライン】



TOHOKU MOMENT

東北3県（岩手・宮城・福島）の招待状ワークショップで作成した各ページをパネル化。エリア毎に展示を行い、「特に魅力を感じた、行ってみたいくなった」パネルを選んでもらい、インバウンドを含めた施設利用者にお披露目するイベント。

- **開催日程**：2025年2月22日（土）～23日（日）
- **開催時間**：10:30～18:30
- **開催内容**：
 - ・東北3県 招待状ページのパネル展示
 - ・来場者向けアンケート

<展示内容>

- ・大型パネルに、県ごとのポスターパネルを掲出。
※招待状の1ページをA2サイズパネルで展示。
- ・それぞれにナンバリングを実施し、来場者に「特に魅力を感じた、行ってみたいくなった」パネルを選ぶアンケートを実施。
- ・アンケート回答者は、東北3県の銘菓が当たる抽選会に参加。

<アンケート実施フロー>

- ・来場者は、県ごとに、魅力を感じるパネル（各県1箇所）を選ぶ。
- ・選んだパネルをカードサイズのアンケート用紙に記載いただく。
- ・記入済みアンケートをスタッフに提出、ガラポン抽選会に参加いただく。

<image>



<image>



● 抽選会賞品案 <当たり>

※最終調整中

・東北3県の銘菓（案）

宮城：白松がモナカ本舗 モナカ小型 6個入り

福島：三万石 ままどおる 5個（袋詰）

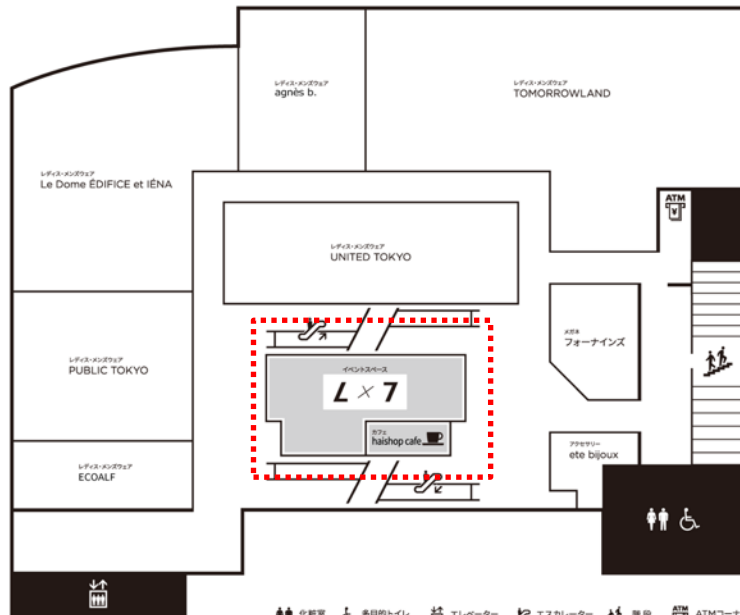
岩手：さいとう製菓 かもめの玉子 4個入りパック

● 抽選会参加賞 <はずれ>

・うまい棒

実施会場

東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号（渋谷駅直結）

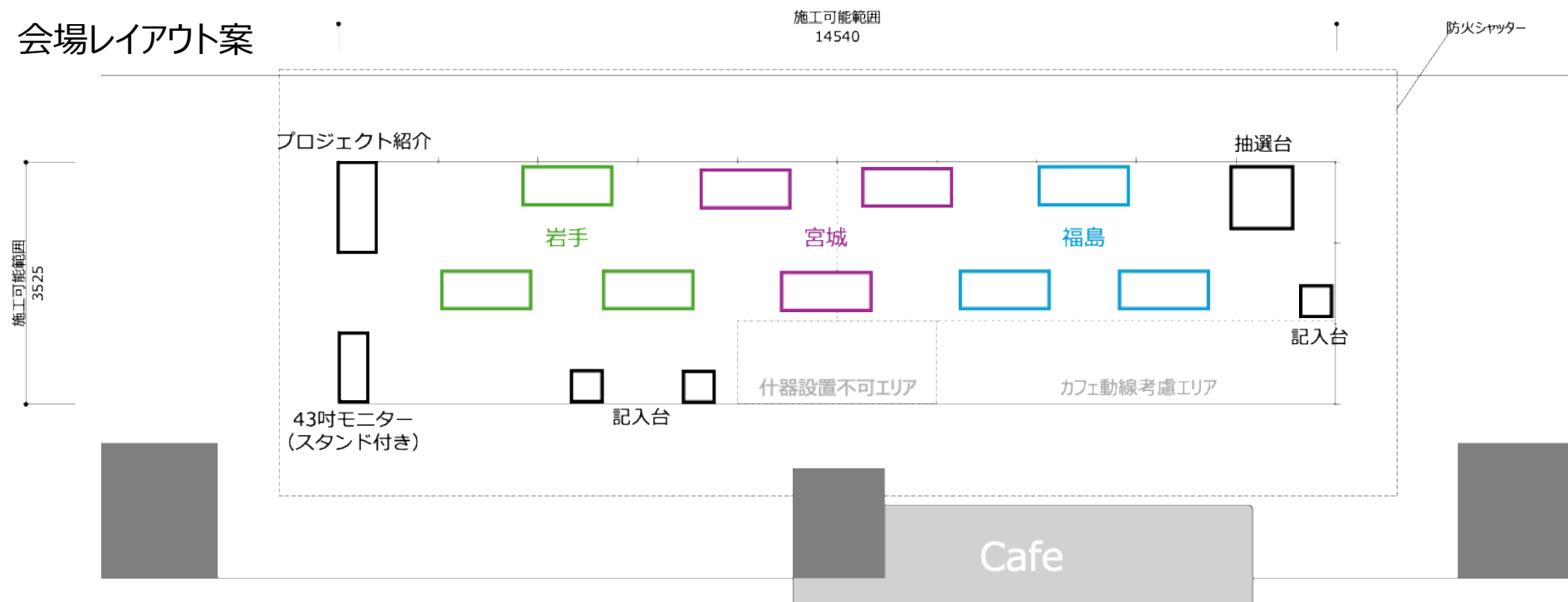


- 低層階と高層階を結ぶエスカレーターの乗り換えフロアに位置する、吹き抜けが象徴的なオープンスペースです。第二のメインフロアとして、幅広いモノ・コトを発信していきます。店舗通路に面しており目に留まりやすく周辺店舗からの誘引も見込めます。これまでに多くの文化的な展示やイベントを開催しており、足を止めて見ていただく催事に最適なスペースです。（※会場資料より引用）

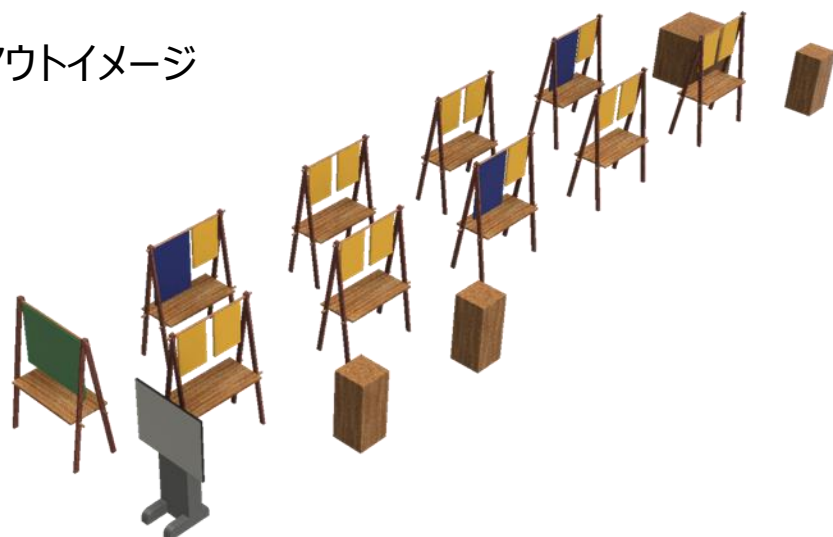
抽選会（アンケート）は500名/2日間合計を目標に設定

● 招待状 首都圏展示イベント開催概要

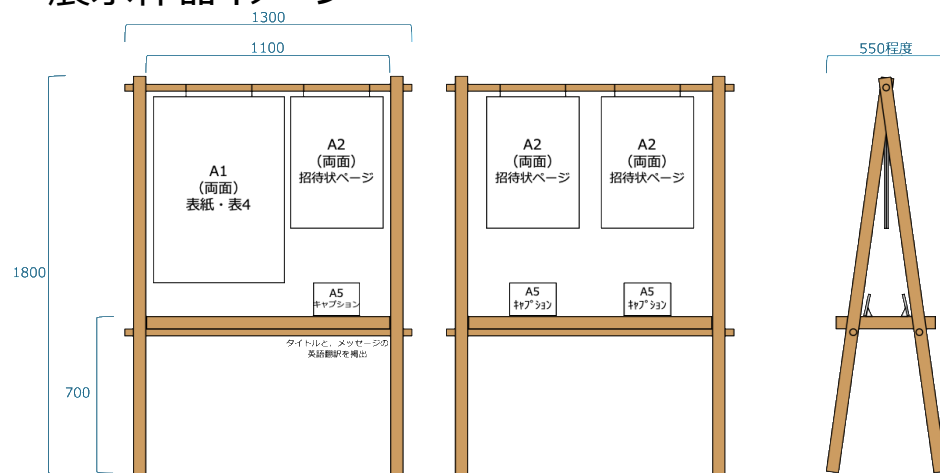
会場レイアウト案



レイアウトイメージ



展示什器イメージ



● 1. 過年度実施状況：全体像

- 岩手県のこれまでの取組では、「**関係人口の増加**」に着目して取組を実施（**内陸部と沿岸部の交流**）実践の場では、沿岸部3拠点（久慈・宮古・釜石）エリアを中心に、それぞれの地域の観光・地域振興の分野で実地調査・取材を行い、**沿岸部のエクスカージョンプログラム**を実施。
- 2025年の大阪・関西万博を見据え、沿岸地域の震災復興した姿・魅力の発信、交流人口拡大を目的とした招待状の作成

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
テーマ	三陸沿岸の地域経済の担い手支援	東日本大震災から10年目にあたって	関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり	関係人口を活用した持続可能な地域づくり	三陸沿岸の復興の姿や魅力を知ってもらう企画作り	三陸沿岸と岩手内陸部を繋ぐ
実践の場	「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」 （大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会	「いわて沿岸とつながる交流会－これまでの10年を未来の力に－」 （陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイディアを共有	「釜石の今と未来を考える 座談会」（釜石市） 地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれからの発展について協議。これら協議の結果に関する意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える 座談会」を開催。	「みちのく潮風トレイル体験から三陸沿岸地域の復興の姿を知る エクスカージョンプログラムモニタリングツアー【宮古コース編】」 一般社団法人 浄土日和とともに、みちのく潮風トレイルを活用し、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、モニタリングツアーを実施。	「行きたい！」「会いたい！」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知るをテーマにした参加する学生・若者向けの三陸沿岸学び旅・交流プログラム 内陸部の学生・若者に沿岸部の震災復興の姿や魅力を伝え交流を図る取組	岩手さんりく探求 YOUTH特派員 県内でも震災の記憶が薄れつつある内陸部と沿岸部交流を目的に内陸部に住む学生が三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る三陸沿岸学び旅・交流プログラムを実施し地域内外に沿岸部の震災復興の姿や魅力を伝える取組

● 2. 意見交換（論点1 今年度の振り返り）

論点1

今年度については、「**沿岸と内陸部を繋ぐ**」ことを取組テーマとし、以下のような視点をもって企画を検討した。これまでの実施報告も踏まえ、**今年度取り組んだ内容についての良かった点／反省点・改善点等**について、ご意見いただきたい。

これまでの取組等から 見えてきた課題

- ・内陸－沿岸間の物理的距離
- ・震災から13年間経過する中での、内陸－沿岸間の関係の希薄化（心理的距離）
- ・若者や女性の県外流出・県内移動（沿岸部→内陸部）
- ・震災から13年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化
- ・地域のプレイヤー不足
- ・地域プレイヤー間の連携不足

機会

- ・復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴う観光需要の復調
- ・盛岡の観光需要の増大（NYタイムズ 2023年に行くべき52か所への選出、WBCでの岩手県出身選手の活躍など）

課題解決・機会を活かすために 考えられる視点・目的

- ① **「沿岸と内陸部を繋ぐ」**ことを取組テーマとする
- ② **若者や女性**を巻き込んだ企画とする
- ① 取組を通じて、**地域振興に関するプレイヤー・観光資源の洗い出しを行う**
- ④ **地域振興に関するプレイヤー間の連携の創出**につながるような一過性ではない企画とする
- ⑤ **内陸の方に沿岸部に実際に訪れてもらう**ような企画とする
- ⑥ 国内・海外から**岩手内陸部に訪れた方にも沿岸部をPR**できるような**発展性・継続性のあるもの**とする

● 2. 意見交換（論点2 次年度の取組内容）

論点2

次年度は、官民連携推進協議会実践の場では最後の年。過年度実践の場を総括する取組として、どのように進めていくべきかを議論したい。

○ 議論のポイント

・ 実践の場企画として、

- ✓ 事務局としては、本年度まで「沿岸部と内陸部を繋ぐ」というテーマで、岩手県沿岸部の魅力発信や事業者連携の創出につながる取組（関係人口増加に着目した取組）を一貫して行ってきた。来年度で今までの同じ形での取組は終了することから、総括的な取組として過去の成果を次世代に継承できる内容（沿岸部に特化し、震災から復興した姿を今まで以上に内外にPRできる内容）を行っていききたい。

- ・ 令和7年度は、過年度の総括として取り組むべきであり、復興庁としては以下に重点をおいて実施することとしたい。

◎ 能登地震やその他災害からの復興に役立つような取組やノウハウを被災地内外に伝える内容

- ✓ 過年度までの実践の場等から得られた成果・教訓のうち、能登地震からの復興やその他災害復興に活用できる取組事例の抽出
- ✓ 抽出した取組事例を他地域に展開するための、取組のポイント等を整理した資料の作成と同資料を活用した講演会等の実施

◎ 対象地域・現地側の体制

- ✓ 今年度の取組では、沿岸部を大きく3つのエリアに分け、内陸部に住む学生たちがプロの映像ディレクターと連携しながら各エリアの事前調査を行い、訪問先リスト等を作成した上で、実際に特派員として現地を訪れ取材・インタビューを行い、沿岸部の復興した状況やその魅力を探求する動画作成を行いました。

来年度は、震災からの復興の軌跡、教訓継承を目的に本地域の復興の際に各局面で民間団体等が果たした役割を抽出し、能登半島や今後の災害復興において参考となる官民連携の取組手法や今後の副代表団体の方々の関わり方等について整理したいと考えております。

◎ 令和7年度以降の実施体制

- ✓ 今年度の取組では、「いわて若者カフェ」との連携模索、実践の場参加者へのアプローチといった観点で、副代表団体の皆様にご協力いただきました。
今後も復興庁が官民連携推進協議会に参画していくには、本協議会の各種の取組を、今後の災害復興の際に参考となる官民連携による取組の先駆事例として、全国に向け情報提供等をしていくことが重要となってきます。
こうした実情も踏まえ、令和7年度以降の実施体制に関するご意見をいただければと思います。